

## 原三溪市民研究会第4回シンポジウム 三溪園と本牧のまちづくり ～そのヒントを探る～

4回目となる今回は、本牧のまちづくりの中で三溪園はどのような役割を担ってきたか、また今後どのような展望でまちづくりに関わってゆくのか、そのヒントを探った。第1部では4人のパネリストの報告があった。三溪園の吉川事業課長は、三溪園は大人向けの施設だが、色々な事業を通して子供に親んでもらうよう心掛けている。次いで本牧神社の當麻宮司は、三溪園の有形文化財に対して、当神社が450年以上も続けてきた「お馬流し」は無形文化財であり、両方あいまってまちづくりは成り立つと報告した。続いて横浜市文化観光局の鬼木施設担当課長は、街づくりには「ストーリー」が必要だ、本牧は三溪園を中心に多種多様な文化遺産のある街で、それらを結びつけてストーリーを作ることができる」と報告した。最後に東京外国語大学の内海名誉教授は、大正の初め横浜学園校長の佐藤善次郎が新しい学校（神奈川学園）を創るために最初に原三溪に寄付を求めたところ首尾よく運んだこと、金沢区の富岡八幡宮の祭事も本牧神社のお馬流しも、舟の競争をして帰るシーンがあり、そもそもは穢れを払うために行った神事である、と報告した。第2部では、第1部の補足説明を行ったあと、コーディネーターの猿渡当会顧問の司会で会場との質疑応答に入った。その中で、本牧の現実は落ち込んでおり、交通のアクセスが急務だという厳しい意見が出た。結論はないが、時の流れもあるのでは。



吉川利一様



當麻洋一様



鬼木和浩様



内海孝様



パネル・ディスカッション